

テーマ：ロイター短観（2013年9月）

発表日：2013年9月19日（木）

～製造業・非製造業ともに悪化も、先行きへの不安は小さい～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 高橋 大輝
TEL：03-5221-4524

	製造業DI										非製造業DI																	
	素材型					加工型					精密機器、その他	不動産・建設	卸売	小売	通信・情報サービス	運輸・電力	その他サービス											
月	繊維・紙パ	化学製品	石油・窯業	鉄鋼・非鉄	食品	金属・機械	電機	輸送用機器	3ヶ月後見通し	19								24	▲20	33	29	42	15	0	9	15	26	25
2012	1月	▲5	▲4	0	▲5	▲12	0	▲6	17	▲10	▲29	14	7	6	▲15	6	8	0	22									
	2月	▲11	▲8	▲9	0	▲12	▲22	▲13	0	▲28	▲29	14	8	5	▲5	18	4	▲8	0	18								
	3月	2	4	11	5	▲12	14	0	0	▲9	▲8	27	0	5	▲16	17	0	13	▲9	24								
	4月	1	▲6	▲33	5	▲15	0	6	33	5	▲9	15	7	10	10	6	▲15	7	0	42								
	5月	2	2	0	4	0	0	3	20	3	▲6	12	0	11	0	9	0	27	▲8	38								
	6月	▲3	▲2	9	▲5	0	▲11	▲4	20	▲3	▲12	0	0	11	0	16	11	37	▲3	13								
	7月	▲2	0	▲9	10	▲15	0	▲3	0	0	▲13	5	0	8	▲9	23	13	16	▲8	16								
	8月	▲4	▲5	▲9	0	0	▲12	▲4	0	▲4	▲10	0	9	8	0	28	▲5	14	▲4	17								
	9月	▲5	▲6	▲9	▲13	0	11	▲5	25	▲4	▲13	6	▲7	7	▲9	12	▲5	20	▲4	26								
	10月	▲17	▲13	▲20	▲17	0	0	▲20	0	▲18	▲27	▲11	▲25	7	▲9	15	0	10	▲4	25								
	11月	▲19	▲15	▲18	▲19	0	▲13	▲21	20	▲32	▲28	▲24	0	1	0	6	0	10	▲20	14								
	12月	▲18	▲14	▲17	▲19	0	▲11	▲20	20	▲22	▲34	▲17	▲9	5	10	5	▲5	14	▲13	18								
2013	1月	▲17	▲15	▲30	▲9	0	▲22	▲18	20	▲20	▲25	▲19	▲9	10	9	18	5	29	▲16	25								
	2月	▲13	▲15	▲36	▲4	▲15	▲13	▲11	20	▲19	▲26	6	0	8	9	25	▲5	7	▲17	29								
	3月	▲11	▲14	▲30	▲10	▲16	0	▲10	20	0	▲28	▲6	0	12	0	20	14	33	▲21	30								
	4月	▲4	▲12	▲18	▲9	▲15	▲11	3	▲20	21	▲14	14	0	12	17	20	19	19	▲15	23								
	5月	7	0	▲30	9	25	▲10	13	0	22	10	7	9	19	18	32	8	40	▲4	33								
	6月	15	12	▲20	20	12	27	17	43	18	6	21	17	20	25	18	4	40	4	26								
	7月	13	4	▲20	5	15	20	16	14	16	15	29	7	18	21	18	12	26	▲4	32								
	8月	16	20	0	28	14	30	14	29	8	15	21	9	23	27	33	4	38	▲5	37								
	9月	12	12	▲10	19	15	17	12	14	13	3	27	9	20	36	19	▲4	42	0	28								

(出所) ロイター「ロイター短観」

○製造業DI：改善傾向に一服感

9月ロイター短観（調査期間8月30日～9月13日）の製造業DIは+12（8月：+16）と前月から悪化した。均してみても、このところは改善に一服感がある。ただし、水準は依然として高いことや先行きは改善が見込まれていることから、悲観的な内容ではない。加えて、QUICK短観や法人企業景気予測調査などでは景況感が改善しており、今月の悪化は一時的なものに留まるとみている。

内訳をみると、素材型が前月差▲8、加工型は前月差▲2とどちらも悪化した。素材型は繊維・紙パ、化学、鉄鋼・非鉄、加工型では食品や電機が悪化した。悪化の理由として「中国経済の底打ちが確認できない」（鉄鋼）や「円安効果により持ち直しつつあると思われたが、新興国中心に受注に陰りが出てきた」

（金属・機械）など、新興国経済の減速を挙げるコメントがみられた。また、「原料高に加え世界経済の動向が不透明」（化学）や「原料高騰に伴う商品価格の値上げが遅れている」（食品）など原材料高を指摘するコメントがみられた。円安傾向の一服によって、企業収益の改善よりもコスト高による収益圧迫の影響の方が大きい企業は少なくないようだ。

3ヶ月後の見通しは+19と9月実績（+12）から改善が見込まれている。「設備投資に多少の改善が見られるが本格回復に至っていない」（電機）、「一部よくなってきているが、特定事業の回復が遅れている」

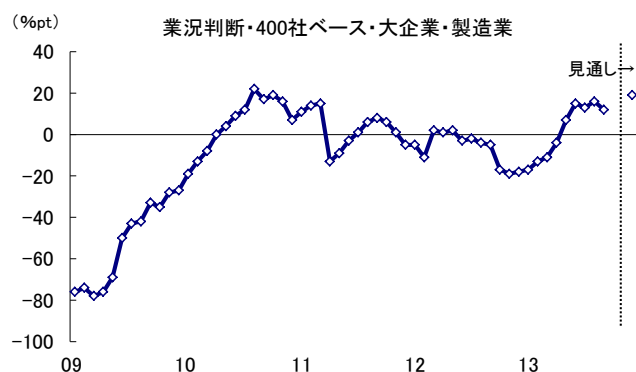
（化学）など、力強さには欠けるものの景気の回復を感じている企業が増えてきているようだ。引き続き海外経済の動向には注意が必要だが、輸出における円安効果の本格化や価格転嫁の進展による企業収益の改善などから、製造業の景況感は良好な水準を維持しよう。

○非製造業DI：今月は悪化も基調は上向き

非製造業DIも+20（8月：+23）と悪化したものの、均してみれば改善傾向を持続しており、依然とし

て高水準を維持している。内訳をみると、不動産・建設や通信・情報サービスが改善したものの、卸・小売やその他サービスが悪化した。不動産・建設は「金利先高観などから住宅取得検討者が増加」（建設）、「復興関連予算が実行され、回り始めているのを感じる」（建設）とのコメントがみられ、住宅を取り巻く環境が良好なことや公共事業の好調さが改善に繋がっている。一方、大幅悪化となった卸・小売では、高額品消費は好調であるものの「日常消費自体が回復しているようには思えない」などのコメントがみられた。消費者マインドの改善一服から、個人消費の基調が弱まっている可能性がある。

3ヶ月後の見通しは+23（9月実績：+20）と改善の見通しで、先行きも好調な推移が見込まれている。多くの業種で改善が見込まれており、今月は悪化となった小売も大幅改善が見込まれている。陰りのみえる個人消費は雇用や所得環境の改善から増加基調自体は維持されるとみられ、消費税率引き上げ前の駆け込み需要も期待できる。さらに、緊急経済対策効果による公共投資の増加の本格化や、住宅着工の駆け込み需要も予想される。こうした要因を受けて景況感は今後も良好な水準を維持する可能性が高いだろう。



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



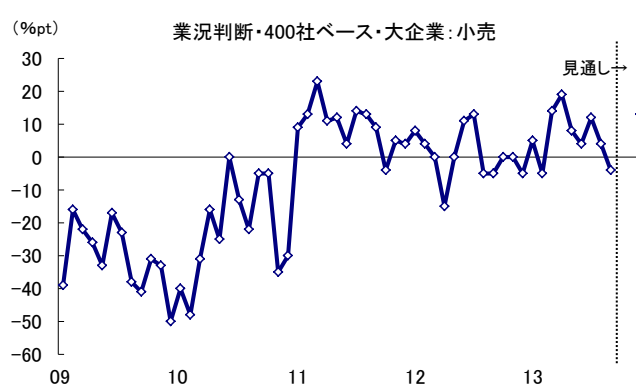
(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」